

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
24

振興協議会だより

[発行日] 平成29年4月24日
[発行] 苗場山麓ジオパーク推進室
[お問い合わせ] 025-765-1600

新潟圏域ジオパークガイド意見交換会in苗場山麓

3月4日・5日の2日間にわたり、津南町総合センターやとねんぼなどを会場に、新潟圏域ジオパークガイド意見交換会が行われました。新潟県内3地域のジオパークのガイド同士の情報交換と絆を深めることを目的に実施しているもので、今回で3回目となります。苗場山麓が会場となるのは初めてです。



1日目は、糸魚川ジオパークと佐渡ジオパークの皆さんが農と縄文の体験実習館に集合、館内説明の後、津南町総合センターで苗場山麓のガイドと合流し、意見交換会となりました。3ジオパーク事務局からの話題、平成28年度のガイドの活動の振り返りを行い、冬季（雪）のガイドの活動について話し合いが持たれました。

2日目は、とねんぼ、切明（温泉見学）、のよさの里（雪の鳥甲山観望）を訪れました。まれに見る快晴かつ温和な陽気となり、予定通り見て回ることができました。今回の企画・運営をしてみて、意見交換会の持ち方や内容、冬季の巡検実施の留意事項など、29年度開催予定の「雪国フォーラム」を計画する上で参考にありました。大過なく、新潟圏域ジオパークガイド意見交換会を終了できました。ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

Mine秋吉台ジオパークで全国研修会開催

3月10日～12日、山口県のMine秋吉台ジオパークにて、JGNの全国研修会が開催され、苗場山麓からは2名が参加しました。全体では100人以上の参加があり、ジオツーリズムをテーマに、グループワークを中心として行われました。現状、成功しているジオツアーというものがないこと、そもそも定義すら曖昧であることが改めて認識されました。

グループワークのほかにジオツアーも行われ、カルスト台地の形成や水の流れによる人の営みなどが紹介されました。オープンしたばかりの拠点施設「カルスター」にはカフェもあり、秋吉台を眺めることができます。



カルスターからの眺め

JGNからは、各ジオパークのジオツアーを冊子などに取りまとめたことへの提案があり、各地域で担当者・専門員・ガイド・地元住民・旅行関係者が一堂に会し、地域の魅力を語り合うなどして、商品となるジオツアーの定義やモデルコースの策定を検討して欲しいとの宿題も出されました。

つなん雪まつりで苗場山麓ジオパークをPR!



3月11日、つなん雪まつりに訪れた町内外の方に向けて、ガイドの会で苗場山麓ジオパークのPR活動を行いました。ここ数年、ガイドの一員が対応してきたものを発展させたものです。旧富田屋旅館前に場所を借り、なめこ汁をふるまったりお酒の試飲などを行いました。また、ジオサイトの説明に関心を寄せるお客さんも多くみられました。ジオサイトの説明時間があまり確保できなかったり、なめこ汁が足りなかったりと、いくつか課題はありますが、ガイドの会では今後も、各種イベントに参加し、苗場山麓ジオパークを発信していきたいと考えています。

苗場山麓ジオパーク学術指導委員会が行われました



3月22日に学術指導委員会を開催しました。委員会では、平成28年度の学術研究奨励事業助成金採択者の研究内容の報告と平成29年度の申し込み者の採択について協議しました。

その結果、平成28年度に実施した奨励研究の質の高さが評価される一方、貴重な報告書が一般閲覧できるようになっていない状況に対して指導を頂きました。第1段階の対応として、報告書のコピー冊子を作成し、図書室などの公立機関に閲覧用報告書を配布します。第2段階とし、予算化したのち、継続的に研究紀要として発刊する努力を講じます。発刊を見通して、報告書の体裁や記述内容についても取り決める必要性があるとの意見があり、賛同を頂きました。

また、平成29年度の学術研究奨励事業の申請は、6件中5件が実質的には継続研究であり、今後、継続期間について議論する必要性が指摘されました。これら一連の議論は、今後、学術研究奨励事業を進める上で必要なルールづくりであり、将来を見通して整備する方向性が確認されました。

平成29年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業助成金 採択者

氏名(代表者)	所属	研究の名称
林 幸大	船津川の自然を考える会	船津川の自然を考える
森下 来美	近畿大学農学研究科	苗場山麓ジオパーク周辺水域における魚類を中心とした水生生物の調査
大杉 周	信州大学 大学院 総合工学研究科	ブナ・スギ混交林の境界におけるシダ植物の分布と生態戦略
涌井 泰二	菅沼を考える会	津南町旧菅沼集落地域の水文環境・動植物の研究
池田 敦	筑波大学 生命環境系	苗場山の湿原および周辺植生の線状分布の規定要因
渡邊 茜	千葉大学大学院理学研究科	苗場山麓の積雪上で活動する雪氷生物に関する研究

GEOPARKmagazine vol.4が刊行されました！

日本ジオパークネットワークより毎年1冊発行しているジオパーク・マガジンvol.4が完成しました。今回は、新企画「もっと知りたいGEO 風と大地の旅」に苗場山麓を特集していただきました。ジオガイド紹介コーナー「ジオの人」では、栄村のクリフト・ロバートさんの笑顔が一番です！

ご希望の方は、ジオパーク推進室 ☎025-765-1600まで。

1冊500円、部数に限りがありますのでお早目にどうぞ。



絵解きジオパーク イラスト:鈴木夏海



穏やかな春風に輝く、萱葺き民家の庭先で朗らかに会話するお婆さんたちがいます。ここがなぜ、ジオサイトなのでしょう？

新商品開発セミナー&ワークショップ

2月18日、苗場山麓ジオパーク振興協議会商品開発部会主催による、苗場山麓ジオパーク新商品開発セミナーが開催されました。伊豆半島ジオパークにあるジオガシ旅行団の鈴木美智子さんを講師に迎え、その活動について講演していただきました。

ワークショップでは、参加者が4班に分かれ、それぞれの班で地域の魅力の掘り出しや新しい商品開発へのヒントを話し合い、全体への発表を行いました。

今後、地域の魅力を様々な分野で再認識し、新商品開発への道筋や後援できる仕組み、ブランド認証の検討が必要です。



伊豆石安山岩を模したジオガシ (右がお菓子)



苗場山麓ジオパークのジオサイト

57の見どころを随時紹介していきます

前倉橋（地質景観）



所在地 津南町前倉

種別 地質

前倉橋は、中津川溪谷にかかる新潟の橋50選のひとつです。柱状節理のある岩壁は、結東層（約1800万年前から1500万年前の日本海ができたはじめのころの地層）です。中津川流域の逆巻から小赤沢にかけて分布し、その厚さは、1500mにもなります。暗緑色～暗緑灰色の安山岩（玄武岩）や火山砕屑岩からなっています。溶岩には、柱状節理や板状節理がよく発達しています。また、海底火山による枕状溶岩や水冷破碎岩（ハイアロクラスタイト）も見られます。地層の中には、固い砂岩泥岩の互層もあり、貝化石も発見されています。

ここでは、暗緑色の変質した玄武岩の柱状節理とエメラルドグリーンの中津川にかかる赤いアーチのコントラストがとても美しく、紅葉のシーズンになると、多くの観光客が訪れます。

苗場神社



所在地 栄村小赤沢

種別 文化

平坦な山頂に点在する多数の池塘が苗代田を思わせる苗場山は、「神の苗代田」と呼ばれ、農耕の神様として祀られてきた歴史文化を持つ山です。苗場講と称する講中からは参拝登山し、豊穡を祈念しました。その里宮は小赤沢集落に十二社とともに苗場大明神として祀られています。

苗代の苗の成長が良くない時には、苗場大明神のお札を貰い受けて来て、ヨシなどにつけて水口に立てて、成長が良くなるように祈ったそうです。その際の護符やハチンジョが津南町歴史民俗資料館に収蔵・展示されています。

毎年6月1日に、苗場神社にて苗場山・鳥甲山・佐武流山の山開きの儀礼が行われています。

〈ハチンジョ〉

和紙に願い事を書いて、小枝や豆木に結びつけ、供えるもの。

※地質学の学説は複数あり、現在も研究が続いています。そして、本地域の調査研究がこれからも行われる必要があります。

第2回フォトコンテストの入賞作品決定

第2回苗場山麓ジオパークフォトコンテストの応募作品数は79点あり、前回よりも質が高まったとの審査委員の総評でした。

審査の結果、十日町市の小坂幸平氏の「幻想の石垣田」が最優秀賞となりました。このほか、ジオ・エコ・カルチャー賞の3賞、スマホ・タブレット賞・佳作10賞、計15作品が入賞しました。今後、これらの作品は苗場山麓ジオパークでの広報活動などに活用させていただきます。

審査委員からは、継続と、観光部局や地元の多様な事業者との連携の必要性が指摘されました。今後もフォトコンテストを開催し、より多くの皆様に苗場山麓ジオパークへ来訪いただきたいと思います。



最優秀賞「幻想の石垣田」(小坂幸平さん)

つなん温泉調査隊 PR動画&PRソングがお披露目！



津南小4年生(平成28年度)は総合的な学習の中で、苗場山麓ジオパークに点在する温泉について、「つなん温泉調査隊」として、春から現地へ赴くなど、時間をかけて取り組んできました。その成果発表が、2月23日に津南小学校体育館で保護者などを招いて行われました。

第1部はこれまでの活動をスライドで紹介し、温泉のPR動画も上映されました。子どもたちが楽しみながら調査をしてきた様子がかげえました。第1部の最後には、児童たち自ら作詞した温泉PRソング「笑顔満開♪」が披露されました。

続いて第2部では、「子ども温泉ソムリエによる温泉解説」と題し、個人それぞれが調査した温泉の紹介を行いました。子どもたちが非常に興味を持って取り組んできたことが感じられました。また、発表会に参加した保護者の中には、初めて知る温泉もあったようで、子どもたちを介してジオパークに対する認識が広がっていくように思えました。

「おらのつなんまち！苗場山麓ジオパークPRムービー」が最優秀賞に



高橋健一君(左)と
当時の担任だった渡邊和幸先生

「おらのつなんまち！苗場山麓ジオパークPRムービー」(津南町立津南小学校平成26年度6年生チャレンジ学年)が新潟県立生涯学習推進センターによる平成28年度新潟県自作映像・視聴覚教材コンクールの児童生徒部門にて最優秀賞を受賞しました。

3年前、苗場山麓ジオパークの認定を目指す中で、当時の津南小6年生がジオサイト候補を巡って特徴やストーリーを学習し、より多くの人に知ってもらうための様々なアイデアを生み出しました。そのひとつがPRムービー作りであり、ユーチューブを利用して世界中の人に見てもらおうとの意気込みがありました。

2年の時を経て、その事業が表彰され、授賞式には、現在中学3年生となった高橋健一君が参加しました。

この学習の流れは現在も継続され、今後も様々な活動が期待されます。

新たな認定ガイドが誕生！

3月25日、第3回苗場山麓ジオパークガイド認定検定を実施しました。町内外から14人の応募があり(当日の受検は13人)、7人が合格されました。

受検の申込が年々減少していることが気になりますが、毎月実施しているジオサイト巡りにご参加いただき、苗場山麓ジオパークの地形・地質、生態、歴史文化などのお宝にふれていただき、応募者の増加に努めたいと考えます。

認定証授与式とガイドの会総会については、次号でお知らせします。



絵解きジオパーク その答えは

長野県宝である「阿部家住宅」は、多雪地帯に発達した「中門造り」というL字型の構造で、江戸中期(1750～1770年頃)に建てられたといわれます。阿部家住宅のある大久保地域は、毛無山の北東川斜面に位置し、南西側は傾斜が大きいですが、この付近は平坦な地形となっています。平らな面は、津南でいう谷上・米原1面に相当しています。地盤をつくっているのは、毛無山から流れた火砕流堆積物がくずれて堆積したものです。これらの平坦面を深く侵食し、小箕作川・大巻川・奈免沢川が流れています。一部には、火山灰層(ローム)をのせています。